

十二月金澤尾山神社へ神像を合併し、廢社と成りたり。或は云ふ。昔波着寺前に製藥所を建てられ、水車を以て彈藥製造を命ぜられしは、辰巳用水の餘水多く波着寺前へ來りし故なり。其の遺蹟は今詳かならずといへども、白山町と稱する地邊なりとぞ。

### 金澤古蹟志卷十一

#### 城東小立野臺下

##### ○百々女木町

元祿九年の地子町肝煎裁許付に、どゞめき近所地子町とありて、どゞめきの名は橋梁の名より起りたるもの也。享和三年幕府へ進達の町名書には、轟來町とす。按ずるに、どゞめきを百々女木と書けるものは、越中國射水郡に百米木村といふあり。此の村名をどゞめきと呼べり。又能登國鳳至郡に百成村といふもあり。百成の二字をどうめきと呼べり。是も元はどゞめきと呼びたりけん。苗字の百々氏をどゞと訓めり。どゞの假字に百々或は百の一字を用ひたるは如何なる由なるか、訓義いまだ詳かならず。若しくは十々の意にてもあるべし。

##### ○百々女木橋

舊傳に云ふ。昔小立野山中の曠野なりし頃は、此の橋邊木

曾谷へ繼きたる深谷にて、樵人の通行の爲に架けたる丸木橋なりしを、小立野臺の市中に成るに隨ひ、追々兩岸より埋め込み、今の如く成りたり。往昔は深谷の谷川なるゆゑ、巖石に打付くる岩瀬の音どゞめきけるにより、百々女木町と呼び初めたるにやといへり。按ずるに、此の橋名は奈良のどゞろきの橋と同意にて、どゞめきは動響の意、今俗に云ふどんどといふに同じ。元祿六年の土帳に、三社近所どゞめきとあるも、今いふ三社のどんどなり。龜尾記にも、此の橋の上流に分水の堰あるがゆゑに、どゞめきといふといへり。

##### ○黃龍山獻珠寺跡

此の寺地は、百々女木橋の近邊なりしかど、明治四年二月小學校へ買ひ上げに成り、獻珠寺は馬坂集福寺の地内を買ひ請け、同月此の地へ移轉す。月坡和尚所撰の黃龍山獻珠禪寺改新中興志に云ふ。黃龍山者在加賀州金澤城東南二里許。始慶安中有禪尼宗昌創建之。教遠山禪德關臨濟之法地也。其山不山而高。是爲法之法初嚴也。其境不境而靈。是爲禪之禪再興也。中承應間。州刺史前中納言居士。令寺